NEWSLETTER No.60

日英教育学会
JAPAN-UK　EDUCATION　FORUM

Contents

ごあいさつ 2

日英教育学会第31回大会報告 3

総会報告 5

運営委員会報告 9

日英教育学会紀要編集委員会からのお知らせ 9

第32回(2023年度)年次大会について 10

公開研究会報告 11

Essay 12
小松原祥子　会員
「イギリスの音楽科教育」

Rest in peace, in Your Majesty. 14

事務局からのお知らせ 18

編集後記 19

ごあいさつ

日英教育学会代表　広瀬裕子（専修大学）

8月下旬の本学会大会が終了すると、翌週にイギリスで目まぐるしい首相の交代劇がはじまった。映画のセリフを議会に残してボリス・ジョンソン（Boris Johnson）が首相を退き、9月6日にリズ・トラス（Liz Truss）が首相となった。ちょうどその頃、ニューズレターチームからこの原稿依頼があり、新首相誕生についても触れてほしいということであった。

トラス首相がどのような所信表明演説をしたかなど気にしながら日が経った。そろそろ原稿執筆を始めなければと思っていた10月下旬に、そのトラス首相が突然辞任した。新首相（現首相）はリシ・スナク（Rishi Sunak）である。就任から45日で辞任したトラス首相はイギリス首相の在任期間としては最短だということで話題になった。

首相交代劇に連動して教育大臣も変わっている。ジョンソン政権の最後の時期から約4ヶ月の間に5人が任についている。その過程でミシェル・ドネラン（Michelle Donelan）の在任2日間という、閣僚の在任期間の最短という記録も生まれている。ドネランは7月5日にナディム・ザハウィ（Nadhim Zahawi）から教育大臣を引き継ぎ、その2日後の7月7日にジェイムズ・クレバリー（James Cleverly）にバトンタッチしている。ちなみに、ドネランの在任期間2日は、正確には36時間らしい。

以前Brexitの真っ只中で首相になったテリーザ・メイは、所信表明演説で、通常注目されるマイノリティではなく普通の労働者の生活の困窮に言及した。同じ頃アメリカでは、やはりマイノリティーとしてはあまり注目されなかった白人男性労働者の困窮がトランプ大統領登場の背景としてクローズアップされた。両地域で、グローバル化がメインストリームにいたはずの人々を不安定にしている現象が浮かび上がったということだ。

今回のトラス（前）首相とスナク首相については正直まだ注目すべき観点はわからない。トラス（前）首相は、今こそ英国が抱えている諸問題に取り組む時だとして、自由と企業とフェアプレイに対する信念こそが英国を強くすると述べた。そして大規模な減税策を掲げたのだが、その過程の混乱の中で退陣することとなった。それを受けたスナク首相は、まずは経済の安定と信頼を掲げている。が、具体策としては、経済のレベルアップを掲げるのは当然としても、強いNHS、良い学校、街の安全、国境管理、環境保全、軍隊支援と続き、むしろ内実的には安全保障色が強いようにも思われる。

8月下旬の大会が久しぶりに対面（ハイブリッド）で実施できたように、少しずつコロナ状況も落ち着いてきた。海外調査も復活してきている。私も3年半ぶりに調査に出ようと計画している。ただ、航空券が高騰していることに驚く。JALやBAなどを見たところサーチャージや税だけで15万円近くかかるようだ。調査時期がAssociation of School and College Leaders（ASCL）の大会と重なるので、こちらにも参加を申し込んでみた。

会員諸氏の研究の更なる発展を願う。

日英教育学会第31回大会報告

髙妻紳二郎（福岡大学）

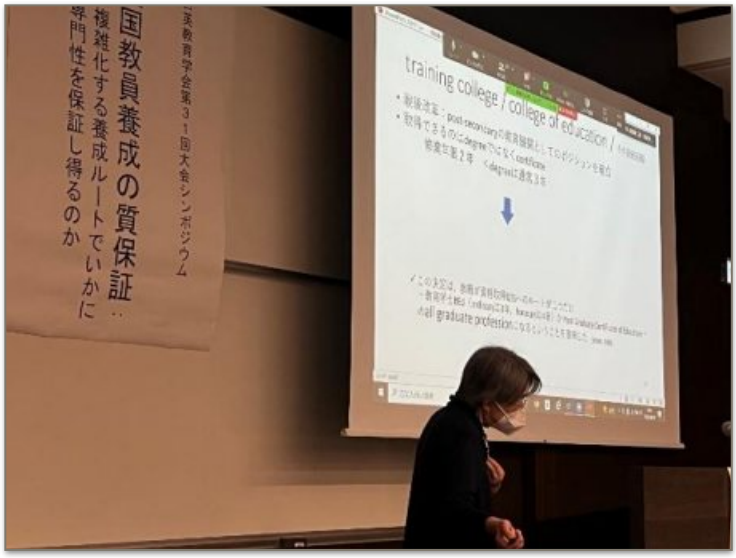
2022年8月29日（月）30日（火）の2日間にわたり、3年ぶりに福岡大学（附属図書館多目的ホール）にて、第31回日英教育学会大会を開催いたしました。2020年の京都女子大学、2021年の早稲田大学を開催担当校としたオンライン開催を経て、今回は対面開催（Zoomでのハイブリッド）を実現することができました。コロナ禍が収束していないなか、遠路、福岡までおいで頂いた会員の皆様、そしてオンラインで繋がっていただいた会員の皆様の多大なご協力に、改めて厚く御礼申し上げます。なお、対面での参加が15名、オンラインでの参加が27名でした。

大会初日には「英国教員養成の質保証：複雑化する養成ルートでいかに専門性を保証し得るのか」と題したシンポジウムを開催しました。英国の教員養成はschool-basedに移行する様相を呈しており、人口増の見通しにありながら深刻な教員不足がみられるなど、伝統的な教職プロフェッショナルを育成する軌道とは離れた動向が看取されます。

本学会ではこれまでイギリスの教員養成にかかわるテーマで2回シンポジウムが開催されていましたが、今回のシンポジウムでは、英国の教員養成ルートと教員の資質・能力の向上策、養成システムに詳しい会員お二人のご報告をもとに、英国における教員養成に焦点化した議論を展開いたしたく、併せて現状及び今後の展開に係る情報共有の場とさせていただきました。シンポジストは盛藤陽子会員（東京大学大学院・院生）と高野和子会員（明治大学）にお願いいたしました。

盛藤会員からは「イギリスにおける教員養成の場の『多様化』と『複雑化』」と題して、特に2010年以降の教育改革の影響を受けたイギリスの教員養成の場がより多様化、複雑化していった経緯を、直近の研究成果等を踏まえて詳細に報告されました。Wittyの議論を引きつつ、学校連合組織が主導するlocal professionalismと優秀校が傘下の連合体をリードするbranded professionalismが進行する可能性が指摘されました。また、教員養成へのコロナ禍の影響にも言及され、幅広い議論が展開されました。

盛藤陽子会員（東京大学大学院・院生）



高野和子会員（明治大学）

高野会員からは「教員養成の軌跡と見通し―日英比較の視点―」と題し、戦後改革史の素描を踏まえて学校主導型の教員養成システムの原理と仕組みを詳細に解説されました。今日の教職規制を担うTeaching Regulation Agency：TRAの動向には目が離せないことが理解できましたし、報告の最後には日本における教員養成の質保証動向にも触れられました。いずれも本学会紀要『日英教育研究フォーラム』第27号にご報告内容が収録されますので併せてご覧ください。

二日目の自由研究発表においては、花井渉会員（九州大学）の司会で次の3件の研究報告がなされました。①「英国における早期離学者への施策－4地域の差異に注目して」井上慧真会員（帝京大学）、②「英国の初等学校における食育の動向」石黒万里子（東京成徳大学）、③「白人労働者階級児童・生徒の教育上のディスアドバンテージ問題への取り組みに関する一考察」清田夏代（実践女子大学）。これらの発表に引き続き活発な全体討論が展開されました。

本大会もこのように英国の多様な領域を対象とする研究報告がなされ、久しぶりの対面大会ということもあいまって、終了後も名残惜しく交流の時間が続きました。ご登壇された先生方、貴重な研究報告をしていただいた会員の皆様には、重ねて厚く御礼申し上げます。なお、本大会のハイブリッド方式開催が実現できましたのは、宮島健次会員（西武文理大学）のひとかたならぬご協力のおかげです。機器のセッティングをはじめ、オンライン参加者への配慮等、適切に対応していただきました。記して感謝申し上げます。

末尾ながら来年の大会も無事に対面で開催され直接の議論ができること、そして会員の皆様の研究のご発展をお祈りいたします。

総会報告

シンポジウム後に行われた総会での報告及び決定事項については次のとおりです。

1. 報告事項

(1)会員数(2022年7月31日現在)　100 名
入会者1名、退会者1名、逝去者1名(2021年8月1日以降2022年7月31日まで)、除籍者0名(2022年3月末除籍、2019年度以降会費未納)

(2)2021年度会務報告
①紀要第25号の発行、②ニューズレターの発行:57号(2021年6月23日)、58号(2021年12月21日)、③運営委員会(以下の3回)

第1回	第2回	第3回
日時:2021年5月16日 場所:オンライン会議 議題: 1)会員数 2)2020年度決算(案) 3)2021年度大会 4)紀要 5)2021年度予算(案) 6)次年度大会校 7)公開研究会 8)ニューズレターNo.57 9)その他 ・シニア会員制度 ・学会創設30周年事業	日時:2021年8月30日 場所:オンライン会議 議題:年次大会総会にかかる議案の審議	日時:2021年11月6日 場所:オンライン会議 議題: 1)紀要第26号 2)2022年度大会 3)2022年度の年間スケジュール 4)公開研究会 5)その他 ・NL第58号の構成 ・シニア会員制度

(3)2021年度研究活動
公開研究会
2021年11月13日(土)　於)オンライン
テーマ:「保守党政権下でシティズンシップ教育はどう変容したか」
講師:北山夕華会員(大阪大学)
司会:片山勝茂(東京大学)
コーディネーター:吉原美那子(高崎経済大学)

2. 審議事項

(1)2021年度決算(別表参照)
柿内真紀会員、北山夕華会員の会計監査報告とともに承認されました。
なお、事務局より2021年度予算について誤りがあったことが報告され、以下の訂正が承認されました。
【訂正】
2021年度の大会で承認された2021年度予算(案)の資料において、特別会計の収入の繰越金の2021年度予算の金額を411,820と記載していましたが、これは2020年度決算における収入のみで繰越金を算出した金額であり誤りでした。正しくは特別会計の支出(23,597)を減算した額である388,223でした。また、繰越金が388,223に訂正されることにより、収入の計も588,223となります。

(2)2022年度の活動計画
①紀要第26号の発行、②紀要の公開:学会HP上での公開、J-STAGE上での公開、③『英国の教育』の広報、④2023年度の大会について(会場:専修大学/運営:東京成徳大学)、⑤研究会の開催

(3)2022年度予算(別表参照)
原案通り承認されました。

(4)その他
1) シニア会員制度
新たな会員資格としてシニア会員を設けることについて審議が行われ、承認されました。これにより会則第4条が以下のように変更されることになりました。
【第4条(会員)】
イギリス教育の研究に携わる者および関心を持つ者で、本学会の目的に賛同する者をもって会員とする。
会員には一般会員、学生会員(有職のまま大学に在学するものは含まない)、名誉会員およびシニア会員の別を設ける。
会員のうち3カ年の会費納入を怠ったものは、本会から除籍される。

★申し合わせ事項(2015年総会)
〇運営委員会は満70歳以上の会員で、本学会代表を歴任した者あるいは本学会の発展に大きく寄与した者を名誉会員として推薦し、総会の承認を得るものとする。
〇名誉会員は会費を負担しない。
〇名誉会員は被選挙権を持たない。
★申し合わせ事項(2022年総会)
〇シニア会員は満70歳以上かつ、本学会の在籍年数が25年を超える会員で、本人が申し出を行い、運営委員会が承認した者とする。
〇シニア会員は会費を負担しない。
〇シニア会員は被選挙権を持たない。

2) アーカイブ事業
事務局には2010年以前の記録が一部しか保管されていないため、それ以前の記録の収集を行っていることについて報告がありました。

3) 会員名簿の作成
会員同士の交流等に活用してもらうための会員名簿について、作成状況の報告がありました。

(青木研作)

2021年度決算

一般会計（収入）

		予算		決算		決算−予算	備考
繰越金		402,393		402,393		0	
会費収入		**762,300**		**710,000**		−52,300	
	当該年度		693,000		654,000	−39,000	
	過年度		69,300		56,000	−13,300	
	2022年度以降		0		0	0	
寄付		0		0		0	
紀要売上		2,000		2,000		0	東京大学
銀行利息		0		0		0	
その他		0				0	
計		**1,166,693**		**1,114,393**		−52,300	

2021年度会費支払者数＝83名　8,000円×78名、6,000円×5名

一般会計（支出）

		予算		決算		予算−決算	備考
会合費		50,000		0		50,000	
人件費		10,000		0		10,000	
事務局費		10,000		2,200		7,800	消耗品、振込手数料、その他雑費
HP作業費		10,000		10,000		0	
HP維持費		10,000		7,124		2,876	
通信費		5,000		1,560		3,440	
NL編集費		0		0		0	
NL発送費		26,000		26,140		−140	
NL印刷費		5,000		0		5,000	
紀要25号編集印刷		350,000		316,810		33,190	
紀要発送費		20,000		17,707		2,293	
研究費		40,000		20,000		20,000	
21年度大会開催費		50,000		50,000		0	
21年度ゲスト招聘費		0		0		0	
教育関連学会連絡協議会費		10,000		10,000		0	
学会積立金		200,000		200,000		0	
予備費		50,000		0		50,000	
繰越金		320,693		452,852		−132,159	
計		**1,166,693**		**1,114,393**		52,300	

青木研作:
2021年度予算では、411,820と記載していたが、これは2020年度決算における収入のみで繰越金を算出した金額であり誤り。正しくは特別会計の支出（23,597）を減算した額（388,223）。
※次回の総会で2021年度予算の資料

特別会計

		予算		決算		差し引き	
収入	繰越金	388,223		388,223		0	
	学会積立金	200,000		200,000		0	
計		**588,223**		**588,223**		0	
支出	選挙費	0		0		0	
	海外ゲスト招聘費	0		0		0	
	出版準備費	0		0		0	
計		**0**		**0**		0	

青木研作:
※同上。

繰越金　588,223−0＝588,223

2022年度予算

一般会計

収入

		2021年度予算	2021年度決算	決算－予算	2022年度予算	備考
繰越金		402, 393	402, 393	0	452, 852	
会費収入	当該年度	693, 000	654, 000	−39, 000	689, 400	8, 000×92+6, 000×5の90%を目安に
	過年度	69, 300	56, 000	−13, 300	68, 940	過年度分は当該年度分の1割
	翌年度以降	0	0	0	0	
その他		2, 000	2, 000	0	2, 000	紀要売上
計		1,166,693	1,114,393	−52,300	1,213,192	

支出

			2021年度予算	2021年度決算	予算－決算	2022年度予算	備考
1	会合費		50,000	0	50,000	50, 000	
2	人件費		10,000	0	10,000	10, 000	
3	事務局費		10,000	2,200	7,800	10, 000	消耗品、振込手数料、その他雑費（印名簿：消耗品代）
4	HP作業費		10,000	10,000	0	10, 000	
5	HP維持費		10,000	7,124	2,876	10, 000	
6	通信費		5,000	1,560	3,440	5, 000	
7	NL編集費		0	0	0	0	
8	NL発送費		26,000	26,140	−140	30, 000	
9	NL印刷費		5,000	0	5,000	5, 000	
10	紀要26号編集印刷		350,000	316,810	33,190	350, 000	
11	紀要発送費		20,000	17,707	2,293	20, 000	
12	研究費		40,000	20,000	20,000	40, 000	
13	22年度大会開催費		50,000	50,000	0	50, 000	
14	教育関連学会連絡協議会関連経費		10,000	10,000	0	10, 000	
15	学会積立金		200,000	200,000	0	200, 000	
16	予備費		50,000	0	50,000	50, 000	
17	繰越金		320,693	452,852	−132,159	363, 192	
	計		1,166,693	1,114,393	52,300	1, 213, 192	

特別会計

			2021年度予算	2021年度決算	予算－決算	2022年度予算	
収入	繰越金		388, 223	388, 223	0	588, 223	
	学会積立金		200, 000	200, 000	0	200, 000	
計			588, 223	588, 223	0	788, 223	
支出	選挙費		0	0	0	0	
	ゲスト招聘費		0	0	0	0	
	出版準備費		0	0	0	0	
計			0	0	0	0	

繰越金 588,223−0=588,223 **788,223**

運営委員会報告

(1)2022年8月29日、福岡大学にて(1名はWeb会議システムでの参加)、第2回運営委員会が行われ、年次大会総会にかかる議案を審議しました。
(2)2022年11月6日、Web会議システムにて、第3回運営委員会が行われました。概要は次のとおりです。

議題

① 紀要第27号について
② 2023年度大会(専修大学)について
石黒委員より、テーマや日程についての提案があり審議が行われた。
※大会スケジュールやシンポジウムの内容については、本NLに掲載している「第32回(2023年度)年次大会について」を参照のこと。
③ 2023年度年間計画について
④ 公開研究会について
吉原委員より、市民性教育をテーマとした研究会について2023年の2月か3月での実施を検討している旨の説明があった。
⑤ NL60号の構成案について
谷川副代表より、NL編集チームで決定した第60号の編集方針等についての説明があった。
⑥ 事務局メールの乗っ取りに関して
宮島委員より、事務局メールの乗っ取りに関する経緯やその後の対応について改めて説明が行われた。
⑦ アーカイブ事業の進め方について
⑧ 会員名簿の作成について

日英教育学会紀要編集委員会からのお知らせ

『日英教育研究フォーラム』第28号では、第31回大会シンポジウム「英国教員養成の質保証:複雑化する養成ルートでいかに専門性を保証し得るのか」においてご登壇いただきましたシンポジスト盛藤陽子会員(東京大学大学院・院生)と高野和子会員(明治大学)お二人のご報告とまとめを掲載するほか、自由投稿論文、研究会報告、書評、図書紹介等を掲載予定です。例年通り8月下旬には発行できるように作業を進めてまいります。

紀要の原稿を募集しています

紀要第 28 号(2023年8月発行予定)の自由投稿論文を募集します。編集委員会では次号の総頁数のおよその見当をつけたく、投稿の意思のある方は 2023年1月末日までに、氏名・所属・論文タイトル(仮のものでかまいません)をメールでお知らせください。なお、投稿の意思表示がなくてもご投稿いただけます。論文の投稿の締め切りは2023年3月末日です。

投稿意思表示および投稿論文の提出先は「日英教育学会紀要編集委員会」kiyou@juef.org です。投稿規程は学会ホームページより publications の中から、本学会紀要『日英教育研究フォーラム』第 27号「日英教育学会の歩み・他」にてご確認ください。

日英教育学会紀要編集委員長 髙妻紳二郎(福岡大学)

第32回（2023年度）年次大会について

日英教育学会第32回大会準備委員会　石黒万里子・青木研作（東京成徳大学）

※対面開催とし、新型コロナ感染状況によってはハイブリッドで行う予定です。

1. 開催予定日:2023年8月28日（月）、29日（火）

【場所】 専修大学（神田キャンパス）
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町3-8
（開催場所の詳細は後日お知らせいたします。）

【食事・宿泊】 各自でお手配をお願いいたします。

2. 大会参加費　3,000円（一般会員）、1000円（学生会員）

3. 2日間のスケジュール（案）

第1日:8月28日（月）
11:00～12:30 運営委員会
12:30～ 受付
12:30～ シンポジウム打ち合わせ
14:00～17:20 シンポジウム
※非会員の方もご参加いただけます（参加費無料）
（17:30～19:00 懇親会　※実施するかどうかは未定です）

第2日:8月29日（火）
9:00～ 受付
9:30～11:20　研究発表
11:30～12:30 総会

【シンポジウム】　8月28日（月）　14:00～17:20
英国の独立学校について考える

学校制度には、当該社会の階層性・多様性が色濃く反映している。その典型例が英国の学校制度である。英国の独立学校（independent school）では、公費維持学校（maintained school）とは全く異なる財政基盤のもと、独自のカリキュラムや選抜が行われている。日本語で便宜上「私立/ 公立」と訳されることもあるが、日本のイメージでその姿をとらえようとすれば、その制度の意味をまったく見誤ることになるだろう。

独立学校の代表格である伝統的なパブリックスクールは、きわめて限られた特権階級の姿でありながら、制服や寄宿生活、生徒集団の統制のあり方などは「学校教育」のあるべき姿のひとつの模範として、世界的に広く浸透している。また英国の独立学校も時代に合わせて変化しており、「共学化」や「グローバルな展開」も盛んである。近年では、パブリックスクール日本校の開設も相次いでいる。

英国の独立学校について考えることは、日本の学校教育の多様化（複線化、義務教育機会の多様化など）について考えることにもつながる。本シンポジウムを通して、喫緊の課題である教育格差への取り組みや、教育機会均等についても示唆を得ることを期待したい。

14:00～趣旨説明
【話題提供】
14:10～15:10　小針誠（青山学院大学）
15:10～16:10　古阪肇（文部科学省）
【指定討論】
16:20～16:50　青木研作（東京成徳大学）
16:50～17:20　共同討議
司会　石黒万里子（東京成徳大学）

公開研究会報告(2022年5月9日)

2022年5月19日16:30～18:00に、「ブリティッシュ・スクール・イン 東京(BST)における国際的マインドと異文化理解 ～これら概念をBSTの教育、文化、パートナー校との活動を通じてどのように教え、育成しているか～」というテーマの公開研究会をZoomで実施しました。講師はBST学校長のポール・タフ氏と副校長のデビッド・ジェームス氏にお願いし、通訳をBSTの小杉乃里子氏と中里千津子氏、司会を吉原美那子(高崎経済大学)、コーディネーターを片山勝茂(東京大学)が務めました。参加者は16名でした。

BSTは1989年に設立され、現在3歳から18歳までの生徒が英国ナショナルカリキュラムに基づき学ぶ、日本で最初の英国公認ブリティッシュインターナショナルスクールであり、会員の小杉乃里子氏がBSTのファイナンスディレクターを務めておられます。小杉会員のご尽力で今回の研究会が実現しました。

当日は趣旨説明と講師と通訳の紹介の後、パワーポイントの資料をもとに1時間ほど(通訳付きで)ご講演をいただき、20分ほど質疑応答を行った上で、最後に当会代表の広瀬裕子(専修大学)より閉会挨拶がありました。

講演では、まずタフ校長より(3年前に見直した)学校のビジョン・価値・ミッションの説明があり、価値の部分では「多様性を受け入れ個性を尊重します」「国際的視野を持ち文化の違いに敬意を払います」といった声明が紹介されました。続いてBSTの歴史(1989年に英国からの駐在員家庭のために、非選抜のコミュニティスクールとして創立)、BSTのステイタス(イギリスのチャリティ信託のステイタスを持つNPO)、生徒数と教職員数、クラス定員、児童生徒の国籍(現在では多様な国籍の児童生徒がおり、両親が別々の国籍を持つ家庭が多い)、キャンパス、国際感覚を「異文化を理解、尊重、その価値を認め、多様性を受け入れること、そして多くの視点が多くのことをもたらすことを知ること」と定義していること等が説明されました。

続いてジェームス副校長より、BSTのカリキュラムと課外活動について、国際感覚の育成という観点から説明がありました。カリキュラムは日常の実践の中で児童生徒が複数の文化的視点を探る機会を設けており、それは英語の授業で使用する文献、美術の授業で学ぶ芸術家、音楽の授業で扱う音楽の種類といったものに反映されていること、自身や教室の他の子どもの異文化体験を振り返ったり、多様な他者と関わり、共感したり、(学校外の人を含む)他者と対話をする機会を提供していることが説明されました。また、BST学習者像、(英語に加えて)日本語、フランス語、スペイン語といった複数の言語を学ぶ機会、日本の豊かな歴史・自然・文化体験を活用した事例、パートナー校との活動等が紹介されました。

なお、当日の研究会の記録(録画とパワーポイントの資料)は本学会のホームページ上で会員限定で公開されています。

(片山勝茂)

ブリティッシュ・スクール・イン・東京HPより(https://www.bst.ac.jp/)

Essay

イギリスの音楽科教育

小松原祥子（神戸女子短期大学）

イギリスの学校音楽教育カリキュラムは、1992年以来音楽科ナショナル・カリキュラム（MNC）が導入され、初等学校キーステージ1（5―7歳）から中等学校キーステージ3（11－14歳）まで必修科目となっています。キーステージ4（14－16歳）では、選択科目として修了時の一般中等教育資格試験（GCSE）、大学入学資格であるAレベル試験対策の授業があります。

2013年版MNCでは、それまで示されていた到達目標が撤廃されました（Department for Education,2013）。従来は「演奏・作曲・聴取及び評価」の技能目標に関してキーステージ別にレベル8まで具体的に示されていた（QCA, 2000）ためそれらを意識せざるを得なかったのですが、2014年の初等学校の音楽教科書では「動物」等のトピックで題材構成され、その中に「数学」等のクロスカリキュラムの視点、「リズム」等の音楽の要素が焦点化され（Hanke, M. etc, 2014）、領域を融合して音楽の本質の理解に向かうアプローチが見られます。これは就学前教育段階のテキストでも同様です（Peterson, A. etc. 2021）。

また、2022年に「音楽教育のための国家計画―人生を変える音楽の力」（NPME）が提示され、学校では全ての生徒に質の高い音楽を提供するための音楽開発計画を立てることが求められています（HM Government, 2022）。

イギリスでは、声楽や楽器を専門とする訪問音楽教師による学校でのレッスンを地元の音楽ハブを通して設定できます。NPMEを受け、初等学校でも従来のクラス全体の器楽ではなく、バイオリン専門教師による小グループレッスンによって「最初から即興と作曲を含めることができる」（Music Teacher, 2022年9月）といった提案が挙げられています。

ただ、中等学校キーステージ4の試験対策のクラスでは、リスニングエクササイズによって音楽の要素を効果的に聴き取って音楽的理解を高める（ibid. 2022年10月）方法が推奨されるように、GCSEやAレベルの領域に沿って高得点を狙う姿勢が見られます。

私が2003年に訪問したセント・マリルボーン・カトリック・ハイスクールでは、MNCに基づいた授業に加え、専門家のスタジオで行うAレベル試験対策の音楽テクノロジーの授業、GCSE音楽対策のMIDIを用いた作曲の授業が行われ、課外活動として3つの合唱団と2つのオーケストラ、ジャズバンド、アフリカンドラム、ブラジルサンバ、ウィンドバンドがあり、多くの楽器が備えられていました。ここでは毎週訪問器楽教師によるレッスンが行われ、専門教師による個別指導と恵まれた設備によって質の高い音楽教育が可能であることを目の当たりにしました。

しかしながら近年のエネルギー代の高騰により、私立学校の校長は学校での1対1の音楽レッスンについて「信じられないほど高価です。親にとっては手頃な価格ではありません 」（BBC,2022年 9月）と述べています。2022年8月末、イギリスのGCSE音楽のエントリーはわずか1年で3.8%減少し過去最低を記録した一方で、音楽を受験した学生の44%が最高成績を達成し、83,6%がグレード4（C）以上を達成するという好成績を収めています。このような背景の下、音楽科は「私立学校やクラブ代を支払える裕福な家庭の領域となる危険性がある」（Music Teacher, 2022年8月）と指摘されています。

“Extra-curricular music and sport will boost school performance, says report”Music Teacher November 11. 2022.
https://www.musicteachermagazine.co.uk/news/article/extra-curricular-music-and-sport-will-boost-school-performance-says-report

＜参考文献＞
・Anice Peterson and David Wheway,Kickstart Music 1(5-7yrs)(2021),LMP Publications.
・BBC, September 7, 2022.(https://www.bbc.com/news/education-62670576)
・Department for Education(2013) Music programmes of study: key stages 1 and 2 National curriculum in England.
・HM Government, The power of music to change lives:A National Plan for Music Education June 2022.
・Maureen Hanke, Helen MacGregor, Stephen Chaddwick, Matthew Holmes and Ian Lawrence(2014) Music Express Age 5-6, HarperCollinsPublishers Ltd.
・ibid. Music Express Age 6-7.
・Music Teacher, August 25,2022.(https://www.musicteachermagazine.co.uk/news/article/gcse-music-entries-in-england-hit-new-low)
・ibid., September 1, 2022.
・ibid., October 1, 2022.
・QCA(2000)Music-A scheme of work for key stage 3 Teacher's guide.
・Sue Nicholus and Sally Hickman, EARLY YEARS FOUNDATION STAGE(AGES 3-5):DELIVERING THE EYFS THROUGH MUSIC(2021),HarperCollinsPublishers Ltd.

クリックするとYouTubeで動画視聴できます。

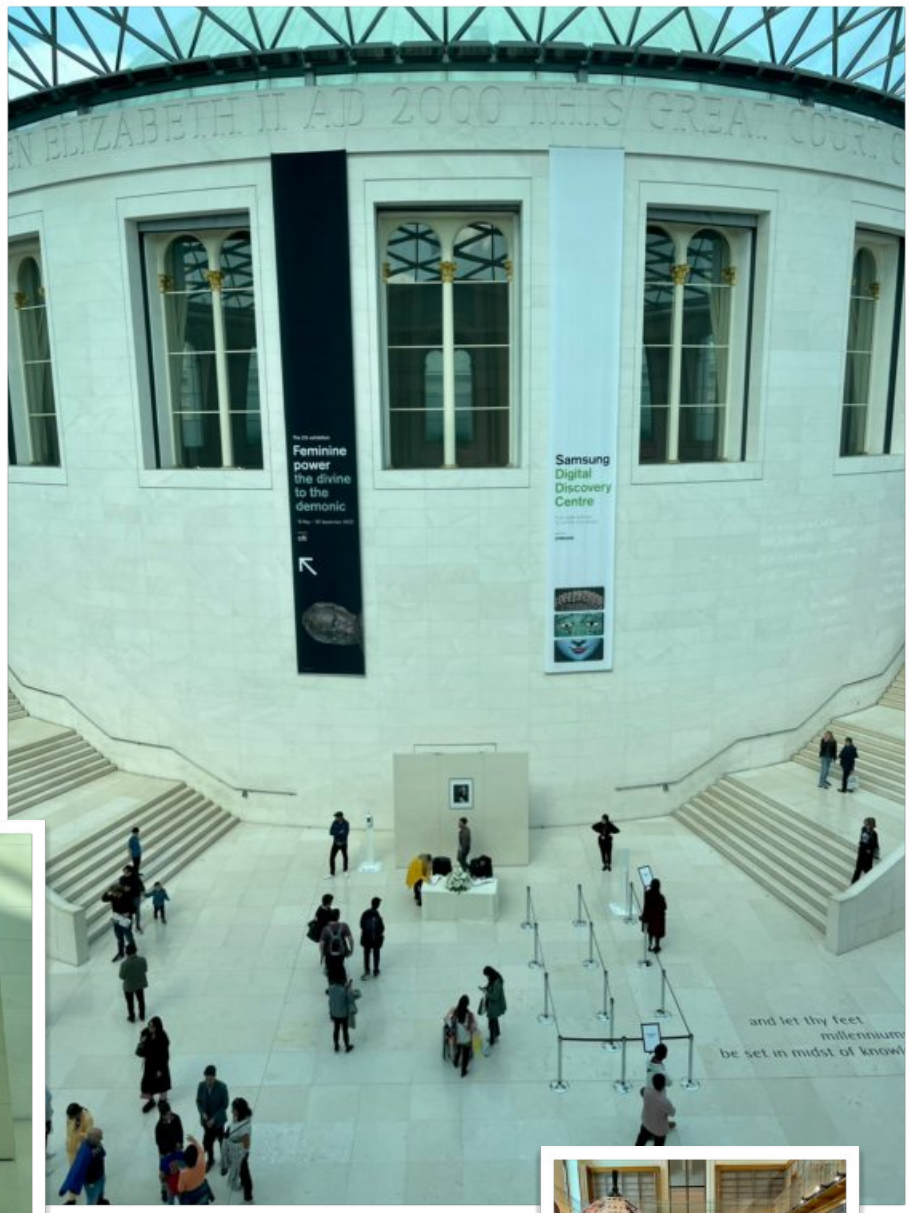
Rest in peace, Your Majesty.

エリザベス女王国葬の様子を写真でお伝えします。

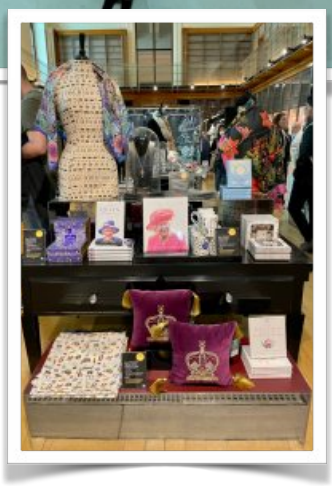
presented by 山口真美 氏(松山東雲女子大学)

当日英国を訪問されていた山口氏(非会員)より提供いただきました。

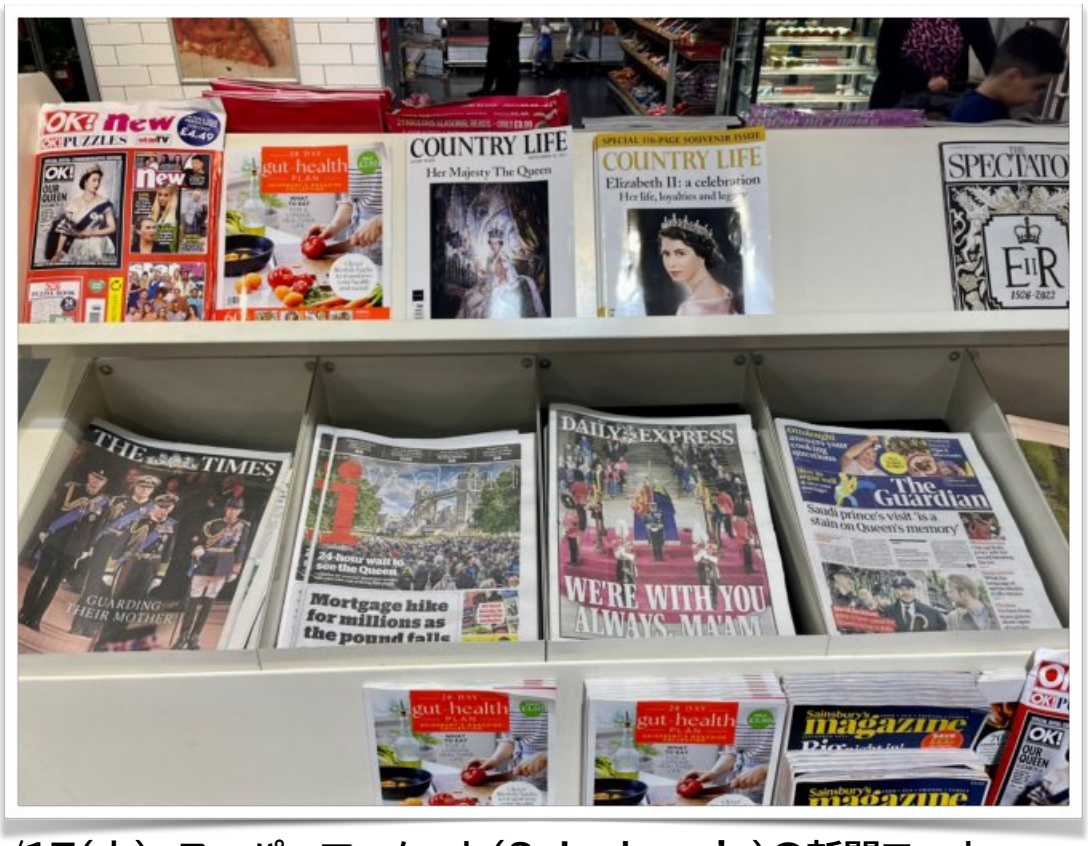
17-18th Sep.
葬儀前の様子



9/17(土) 大英博物館(British Museum)入り口すぐのホール(Great Court)
中央部分に記帳台が設置されている。



大英博物館土産物店(Grenville Room)に並べられた女王関連グッズ



9/17(土) スーパーマーケット(Sainsbury's)の新聞コーナー
地元の新聞は女王死去に関するニュース一色

9/18(日) 地下鉄の駅(North Greenwich)に置かれた看板

衣料品店(Shop Barbour)の外観
お店のディスプレイで女王を追悼している。

9/18(日) ハイド・パーク(Hyde Park)の中に設けられたFloral Tribute Garden
ボランティアスタッフが包み紙を剥がして花だけを置くよう案内していた。手紙や似顔絵、イギリス国旗、パディントンのぬいぐるみなどもあった。木や石の周りにどんどん置かれていっているようだった。お祈りしている人もいれば、色とりどりの花を背景にセルフィーを撮っている人もいた。

9/18(日) グリニッジ・マーケット(Greenwich Market)の一角に設けられた女王追悼ブース
お花を買ってきて置いているようだった。
街中で用いられている女王の写真は、往年の姿と若いときのものとが半々ぐらいの印象を受けた。

19th Sep. 葬儀当日

ウェストミンスターあたり
スコットランド系の衣装をまとった関係者の行進

パブで葬儀の中継を見つめる人々
飲み物などはあまり頼んでおらず、静かに見ている。
黒っぽい服を着ている人も多いような気がした。

事務局からのお知らせ

学会費

学会会費が未納の方につきましては、会費請求のメールをお送りいたしますので、ご対応をお願いいたします。

また、規定に基づき、三カ年会費未納の方は、除籍されます。くれぐれもご注意ください。

※一般会員は8,000円、学生会員は6,000円です。

◆郵便振替　00170　2　780381　　日英教育学会

◆三井住友銀行　武蔵関支店　総合6651815　　日英教育研究フォーラム事務局長　青木研作

アーカイブ事業

本学会のニューズレターについては、現在、第36号以降をホームページで公開しています。今後作業を進め、第1号からすべて公開する予定ですが、バックナンバーのうち、23号、24号、25号、29号については事務局に保管されておりませんでした。もし上記の番号のニューズレターをお持ちの方がおられましたら、事務局までご一報いただけますと幸いです。

会員名簿

学会ホームページに会員専用ホームページを設け、そこに会員名簿を掲載する作業を現在進めています。会員名簿には、原則として、氏名、所属、専門領域・研究テーマを掲載する予定です。作業が完了しましたらお知らせします。

Tony Bush教授来日企画

ノッティンガム大学のTony Bush教授を囲んでの講演会を2023年2月17日(金)13時～16時に専修大学神田キャンパスで実施する予定です。現在、広瀬代表を中心に企画を進めています。詳細が決まりましたら、会員のメーリングリストならびに学会ホームページでお知らせします。

編集後記

NL60号をお送りします。この時期のNLは大会報告がメインとなり、なかなか特色を出しづらいのですが、エッセイは毎号必ず掲載する、それから首相の交代と女王のご逝去は外せないよね、とNL編集委員会で話し合いました。ただ、首相の交代を本格的に論じることは、原稿執筆期間が短い等々の理由でむずかしいため、触れていただく程度でもということで広瀬会長に無理をお願いしました。一方女王のご逝去については、山口先生のご協力により、思いのほか充実した記事を掲載できた、と感謝しています。あらためてお礼申し上げます。

ただ、女王の国葬を取り上げることに、実は私自身葛藤があります。

私の一日は6時25分NHK、Eテレのテレビ体操から始まります。ですから、次にテレビをつけたときはEテレが映るわけで、先日の土曜日もリモコンボタンをおすと、Eテレの番組が登場し、法衣をまとった見覚えのある姿が映し出されました。そして、それが佛教大学の元同僚、広瀬先生（社会学部名誉教授）であると気づくのにそう時間はかかりませんでした。すぐさま新聞で番組名を確認しました。「こころの時代：僧侶たちの戦争」と題された番組でした。その中で広瀬先生は安部国葬についても語っておられました。安部元首相の命も戦争で亡くなったすべての方々の命も同様に尊いと。佛教大学時代、ネクタイをしめた広瀬先生と接するステージは、ややもするときな臭い「学内政治」でした。その記憶をたどりながら、映像が伝えるピュアで魂に響く言葉をおうかがいするアンビバレンスに妙に心動かされました。

安部国葬は言うに及ばず、天皇陛下がご崩御されても、私は国葬を今回のように気軽に取り上げることはないと思います。ところが、エリザベス女王の国葬についてはなぜにこうも姿勢が変わってしまうのか。長年、外国研究をしていて薄々気が付いていたことではあるのですが、英国の教育の研究をしていてもどこか他人事なんです。英国の子どもの貧困や虐待について論じていても、その痛みを感じることはあまりない。一方わが国の研究ではそうはいきません。悲しみや怒りが研究の原動力になっているといってもいいかもしれない。でもこれって客観的に物事が見られてないということかもしれないです。研究者のマインドとして、姿勢としてどちらがふさわしいのでしょう。

今号では英国社会のある一面をお伝えできたかなと思います。そこから何を感じ何を考えるのか、それはもちろん個々の読者に委ねられています。

健やかにクリスマスとお正月をお迎えください。

谷川至孝（京都女子大学）

日英教育学会　（Japan-UK　Education　Forum）

代表　広瀬　裕子

- NL編集チーム　谷川至孝・清田夏代・鈴木麻里子・伊東（青木）敬子・伊藤駿・青木研作
- 事務局　〒114-0033　東京都北区十条台1-7-13
  東京成徳大学子ども学部・青木研究室内　TEL　03-5948-4464
- 問い合わせ先　jimukyoku@juef.org